

## 資料－1 琵琶湖沿岸帯の水生生物環境調査データ(平成12年度)

担当者：遠藤 誠・太田滋規・金辻宏明・三枝 仁

### 調査方法

付図1 調査水域図

付図1-1 びわ町川道幼稚仔保育場

付図1-2 近江八幡市長命寺増殖場造成ヨシ帯

付表1 調査水域・地点の概要

付図2 底質の粒度組成

付表2 理化学環境(水温・DO・pH・クロロフィルa・ORP)

付表2-1 幼稚仔保育場

付表2-2 長命寺増殖場造成ヨシ帯

付表3 魚類採捕調査結果(小型定置網)

付表3-1-1 幼稚仔保育場内(個体数)

付表3-1-2 幼稚仔保育場内(重量)

付表3-2-1 幼稚仔保育場外ヨシ群落(個体数)

付表3-2-2 幼稚仔保育場外ヨシ群落(重量)

付表3-3-1 長命寺増殖場造成ヨシ帯(個体数)

付表3-3-2 長命寺増殖場造成ヨシ帯(重量)

付表4 長命寺増殖場造成ヨシ帯ベントス調査結果

付表5 長命寺増殖場造成ヨシ帯貝類調査結果

付表6 長命寺増殖場造成ヨシ帯植物現存量調査結果

## 調査方法

### 1 調査定点の設定（付図1-1,付図1-2参照）

①びわ町川道幼稚仔保育場：内湖状水面になっている保育場の中央付近で、かつての藻玉放流施設の脇に Stn-中央、琵琶湖側の岸側のヨシ等抽水性植物が粗に生えている所に Stn-岸、幼稚仔保育場の琵琶湖への流出口外側のヨシ群落内に Stn-外ヨシ、そのヨシ群落の沖に Stn-外を設定した。

②近江八幡市長命寺増殖場造成ヨシ帯：魚類増殖場として消波施設などと共に平成年に植栽造成されたヨシ帯。ヨシ帯の前縁（土止め柵）から陸側 12 m（岸側のヨシ植栽地点から 25 m）の所に Stn-1、ヨシ帯前縁土止め柵すぐ内側に Stn-2、その沖側のスズメノヒエ浮産卵床とヨシ帯前縁の中間に Stn-3、増殖場の消波堤の切れ目で増殖場内に波が侵入する所のヨシ帯前縁部に Stn-4 を設定した。

なお、底土の粒度組成とORP測定、植物調査、ベントス調査および貝類調査は、長命寺増殖場造成ヨシ帯のみで実施した。

### 2 理化学項目

水温、溶存酸素、pHは現場で表層と底層を水質チェッカー（ホリバU-10）により、水深は巻き尺により測定した。クロロフィルaは表層水を Scor/Unesco の方法により測定した。調査は5月から3月まで毎月1回行った。

また、底土の粒度組成は標準土壌用分析篩で分別して求めた。ORPについては、春（6月）、夏（8月）、秋（10月）、冬（1月）の4回、pHメーターORP用複合電極（ホリバF-22・6861-10C）により測定した。

### 3 魚類調査

魚類の採捕は、小型定置網を2日間設置して行った。幼稚仔保育場では、保育場の内と外に各1統ずつ、長命寺増殖場造成ヨシ帯では、増殖場内ヨシ帯前縁に1統を設置した。採捕した試料は10%ホルマリンで固定し、種類・個体数・重量・個体測定を行った。調査は5月から3月まで毎月1回行った。

### 4 ベントス調査

長命寺増殖場造成ヨシ帯で実施した。エクマンヴァージ採泥器（15 cm×15 cm）による1回の採集を行った。採集物は目合い1 mmの篩にかけた後10%ホルマリン液で固定し、種類・個体数・重量の測定を行った。なお、採集生物の分類は、生物種により様々な分類段階にとどまった。調査は春（6月）、夏（8月）、秋（10月）、冬（1月）の4回行った。

### 5 貝類調査

長命寺増殖場造成ヨシ帯で実施した。50 cm×50 cmのコドラートによる1回の採集を行った。採集物は目合い1 mmの篩にかけた後、種類・個体数・重量の測定を行った。測定後は70%アルコールで保存した。調査は春（6月）、夏（8月）、秋（10月）、冬（1月）の4回行った。

### 6 植物調査

長命寺増殖場造成ヨシ帯で実施した。50 cm×50 cmのコドラート中の植物の地上部分を刈り取り、種類・湿重量・乾燥重量を測定した。乾燥重量は自然風乾後、乾燥機により80℃で24時間乾燥させて測定した。

## 7 動物プランクトン調査

NXX14 のプランクトンネットで 10 ㍓の水を濾過して、プランクトンを採集した。採集後 5 % 中性ホルマリン液で固定した。(試料は未整理のため試料データからは除外している。)